

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	35人	算数	35人	理科	35人
第5学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人

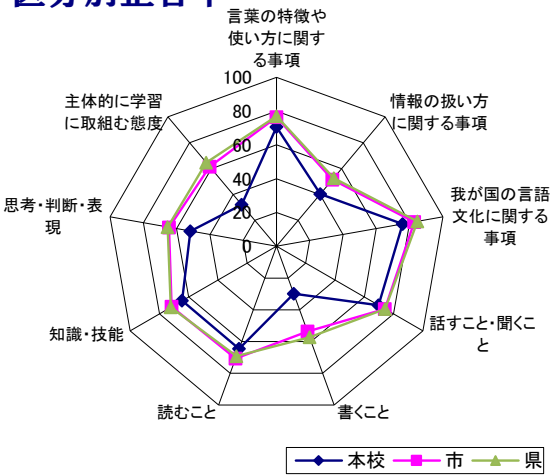
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.6	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	40.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	75.8	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	69.7	74.1	74.2
	書くこと	29.8	53.7	57.2
	読むこと	64.6	70.7	69.2
観点	知識・技能	64.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	51.7	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	32.1	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

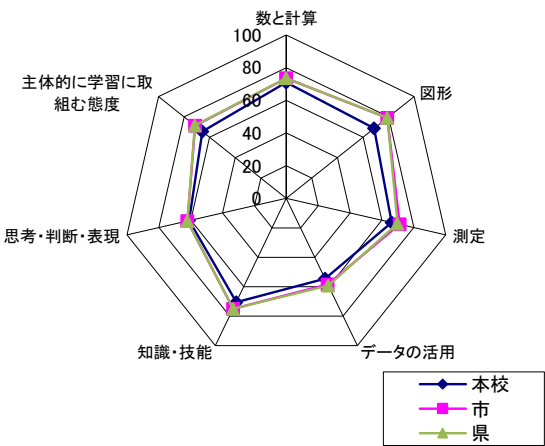
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読み書きの設問については、県の正答率とほぼ同等であった。 ●「主語と述語」「様子や行動を表す語句」についての設問では、県の平均正答率を大きく下回っていた。文の基本的な構成や、語彙力についての理解が十分ではない。 ●2段落構成で文章を書く設問では、正答率30.3%と、県の平均正答率を25ポイント下回った。段落の構成を踏まえて文章を書くことに大きな課題がある。	・漢字の学習については、朝の学習や家庭学習などで繰り返し書く練習をし、ミニテスト等で定期的に評価をしていきながら定着を図っていく。 ・文の構成、語彙力の等の定着について、特に「主語」「述語」については、授業の中で文脈が繋がっているかどうか再確認していきながら、形成プリント等で繰り返し学習していく。 ・文章の大きなまとまりを意識させて、読んだり書いたりする活動を取り入れながら、定着を図っていく。
情報の扱い方にに関する事項	●情報の扱い方にに関する設問では、すべての問題で県の正答率を下回っていた。特に、「調べたことを文章にまとめる」設問では、正答率9.1%と、県の平均正答率を約25ポイント下回っている。与えられた情報と情報の関係を理解することとともに、その考えの理由を明確にししながら文章を記述することに課題がある。	・書くことに抵抗をもつ児童や、根拠を示す書き方が定着していない児童に対しては、文章の型を提示しながら書く練習を継続していき、苦手意識を解消する支援を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字の「へん」や「つくり」についての設問では、県の平均正答率をやや下回った。漢字の基本的な部首について課題が見られる。	・漢字の部首については、新出漢字を学習する際に、部首の特徴や意味、マス目内の位置を確認するようにする。また、漢字辞典を活用し、様々な部首を取り上げていくことで興味関心を広げながら学習に取り組ませていく。
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る設問では、「話し手が伝えたい事の中心を捉えているか」について、県の平均正答率を上回った。また、「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えているか」についての設問でも、県の平均正答率を上回った。 ●聞き取った話の内容を踏まえ、「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す」設問では、県の平均正答率よりも約20ポイント下回った。	・「話し方 かきくけこ」、「聞き方 あいうえお」を意識させながら、基本的な学習態度の定着を図っていく。 ・話の中心をしっかりととらえながら聞くために、話の中の大切な内容を復唱したり、理由を考えながら聞いたりすることを意識させて、授業を展開していく。 ・発言に際しては、「理由」「根拠」を挙げながら、自分の考えについて筋道を立てて説明する活動をさらに取り入れていき、相手にわかりやすく伝える力を育成していく。
書くこと	○調べたことを文章にまとめる問題で、「目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりする」設問では、県の平均正答率をやや上回った。 ●文章を書く設問においては、全体的に県の平均正答率を大きく下回っている。また、約3割の児童が無回答であり、文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多いことがうかがえる。	・書くことに抵抗をもつ児童が多いことから、行事のふり返りや感想等、体験活動に結びつけて書く活動を意図的、継続的に設定し、文章を書くことに慣れさせていく。 ・文章の書き方が定着していない児童に対しては、文章の型や、書き始めの文言を提示するなどして、書く練習を継続していき、苦手意識を解消する支援を行っていく。
読むこと	○説明文の内容を読み取り、「段落ごとの内容を捉える」設問では、県の平均正答率をやや上回った。 ●物語の読み取りについては、全体的に県の平均正答率を下回った。特に、出来事や情景から「場面の様子」を捉える設問や、「登場人物の気持ちを共有して考える」設問では、県平均とともに下回っている。	・説明文の読み取りでは、日頃の授業において、段落ごとの主要な内容を大まかに理解することで段落同士の関係を把握させていき、全体の構成を理解できるように指導していく。 ・物語の読み取りでは、登場人物の言動に加え、人物の様子や場面の情景に着目しながら読み、文章に書かれていない、人物の心情を読みとれるように指導していく。

宇都宮市立富屋小学校 第4 学年【算数】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.0	73.5	73.6
	図形	68.7	79.0	79.1
	測定	66.1	71.1	69.8
	データの活用	54.5	58.4	59.2
観 点	知識・技能	70.5	75.0	75.0
	思考・判断・表現	61.0	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	65.8	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

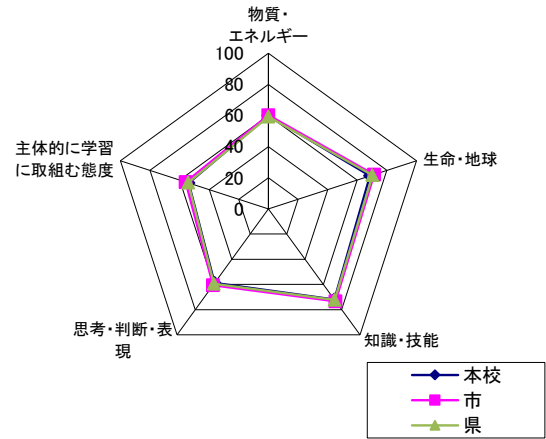
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○大きい数、小数、分数の表し方についての設問では、県の平均正答率とほぼ同等であった。また、四則計算についても平均とほぼ同等であった。 ●わり算については、県の平均正答率を大きく下回った。 ●整数一少数の計算についても、県の平均正答率を約12ポイント下回った。	・朝の学習や家庭学習等で練習問題に繰り返し取り組むとともに、個別学習において、計算方法について確認するなど、基礎基本の確実な習得を図っていく。 ・学習の中で間違っ箇所をやり直すことを通して、つまずきやすい計算のポイントを自ら把握させ、計算力の定着を図っていく。
図形	○正三角形の作図の設問では、正答率87.9%と高く、県の平均正答率と同等であった。コンパスの使用法と作図の手順を定着させるため、作図問題に多く取り組んできた成果が見られた。 ●円の半径と、球の半径をもとに箱の辺の長さを求める設問では、県の平均正答率を大きく下回った。円と球の基本的な知識の定着に課題が見られた。	・図形の基本となる「辺」「角」「頂点」「直径」「半径」などの基礎事項を身につけさせ、定規やコンパスを用いて図形を描いたり確かめたりする活動を重視し、図形問題の確実な定着を図っていく。
測定	○長さや重さにおける「k(キロ)」の単位の意味について問う設問では、県の平均正答率を約15ポイント上回った。 ●時刻と時間、長さ、重さの設問については、全体的に県の平均正答率を大きく下回っている。特に、時刻と時間を求める計算問題、道のりを計測する問題に苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。	・数の量感を捉えられるようにするため、身近な日常生活の中にある「長さ」「重さ」「時間」などを常に想起させながら学習に取り組ませしていく。 ・「巻き尺」や「はかり」などの計器を活用し、長さや重さを実測させることを通して、数の量感を身に付けさせるとともに、適切な単位で表せるようくり返し指導する。 ・時間の単位の換算(60進法)を意識させ、時刻と時間の基礎的な知識をしっかりと定着させていく。
データの活用	○棒グラフを正しく読み取る設問では、県の平均正答率を上回った。縦軸のひと目盛りが表す数について正しく読み取り、問題を解くことができた。 ●棒グラフの間違いを指摘する記述式の設問では、見出したことを分かりやすく説明することに課題があり、県の平均正答率を大きく下回った。	・棒グラフについては、理科や社会などの他教科においても資料として活用しながら学習を進めていく。グラフを読み取ったりかいたりする活動の機会を意図的に増やし、資料から考察できる内容を根拠をもって説明するなどの学習場面を多く設定し、定着を図っていく。 ・ひと目盛りの数や、縦軸の最大値、最小値など、問題を解く過程で分かったことをグラフに書き込ませるなど、段階的に解答していく手順について指導していく。

宇都宮市立富屋小学校 第4 学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.0	60.2	59.2
	生命・地球	68.6	71.3	70.3
観点	知識・技能	72.0	73.4	72.3
	思考・判断・表現	58.8	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	53.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「風やゴムのはたらき」「じしゃくのせいしつ」の設問についての正答率は、県の正答率と同等または同等以上であった。 ○●「音のせいしつ」では、音の大きさとふるえの関係性についての理解が県の正答率より上回っているが、糸電話の糸をつまむと音が伝わらないことの説明は、県の正答率を下回っている。 ●「電気の通り道」の「回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測する」の設問では、県の正答率をやや下回っている。 ●「物の重さ」の「実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する」の設問では、県の正答率を下回っている。	・同じ実験の中で条件を変えて予想し、結果を比較するような学習活動を多く経験させる。 ・実験結果をきちんと読み取り、違いが生じた理由などを自分で見つけられるように、今後も継続して指導する。 ・実験・観察による変化や様子にしっかり着目させ、口頭や記述による説明等の対話的な言語活動を重視し、児童相互に意見や考えを交流し合って理解を深められるようにする。 ・3年時に行った単元テストでつまづきが見られた領域が4年生でもできていない傾向がみられる。何度も繰り返し問題を解く機会を設けることで苦手を克服できるようにする。 ・各単元末には、自分なりの表現の仕方で学習のまとめをさせることで、説明する力を付けていく。
生命・地球	○「身近なしぜんのかんさつ」では、全設問とも県の正答率と同等または同等以上であった。 ●「こん虫のからだのつくり」の「ダンゴムシの体の特徴から、昆虫か否かを判断し、理由を説明する」の設問では、県の正答率を、大きく下回っている。無回答は少ないが、昆虫の特徴を正しく理解しておらず、説明できていない。 ●過年度と同様で、「太陽と地面のようす」では、いずれの設問も、正答率が県の正答率より低くなっている。特に、「方位磁針の正しい使い方」と、「日なたと日かげの温度変化のグラフの読み取り」が、大きく下回っている。植物の育ち方でも、グラフを読み取る力が必要な設問は県の正答率を下回っている。	・各内容で、できている問題と、できていない問題が混在していることから、基礎的事項の定着を図っていく。 ・成長記録や実験記録をグラフにまとめ、結果から分かることを考えたり、意見を交換したりする機会を多く設ける。

宇都宮市立富屋小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする事が出来ている」の肯定的回答の割合は約7割、また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていく」の肯定割合が87.9%と県、市とほぼ同等であった。友達の考えや意見に興味関心をもち、自分の考えを深めるのに役立てていると考えられる。

○「次の教科などの学習は将来のために大切だと思いますか」の設問において、国語、社会、算数、理科、総合と、すべての教科で90%以上の肯定的回答であり、県、市の平均をすべて上回った。学習内容や学ぶことが将来のために大切なことを理解し、学習に取り組んでいることがわかる。

○「将来の夢や目標をもっている」の設問では、肯定的回答の割合が93.9%と高く、また、「家の人と将来のことについて話すことがある」の割合が75.8%と、いずれも県、市の割合に対して大きく上回っている。キャリア教育の観点からも、将来の目標等について日々の生活や学習の中で家庭で共有している事で、自己肯定感の向上につながると考えられる。

●「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は93.9%と市、県の割合とほぼ同等であるが、「家で学校の授業の復習をしている」の設問の肯定割合は48.5%、また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問の肯定割合は45.4%と県、市に比べて大きく下回っている。出された課題に加えて、自分自身の課題点を補う自主学習が定着していけるように取り組んでいく

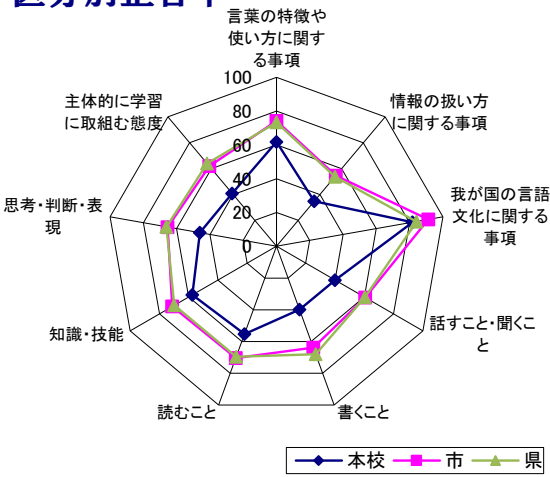
●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問では、肯定的回答の割合が48.5%と、県、市の割合を20ポイント以上下回っている。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の設問では、69.7%と県、市よりも10ポイント以上下回っている。友達の意見を聞いて学習の参考にする意識は高いが、まず自分から学習に取り組み、自力解決を目指して課題に取り組むことを意識させていきたい。また、自分の考えをもった上で、友達や教師の様々な考えを比較しながら聞き、自分の考えをさらに広げたり深めたりできるように指導していく。

●算数や理科において「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答の割合が、それぞれ63.7%、63.6%と県、市の平均を下回った。身近な生活の場面の中で知識を活用することで、学習内容の更なる定着が期待できると考えられるため、授業の中でも、様々な生活の場を想定して学習を進めていきたい。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.8	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	34.8	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	81.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	40.0	60.6	60.4
	書くこと	39.8	63.8	68.0
	読むこと	55.3	70.4	69.6
観点	知識・技能	57.5	71.3	69.9
	思考・判断・表現	46.1	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	40.9	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

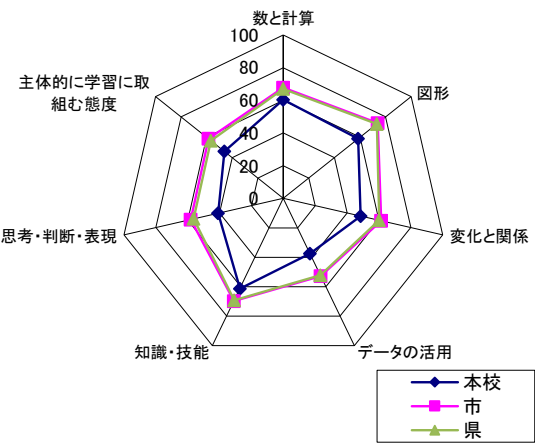
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字を読む設問については、県の正答割合と同等、もしくは上回っていた。 ●漢字を書く設問については、県の正答割合を下回っていた。 ●「文の構成(連体修飾語)」について理解している」「指示語の使い方を理解している」の設問は、県の平均正答率を下回った。文の構成や指示する言葉についての理解が十分ではない。	・漢字については、朝の学習や家庭学習などで繰り返し練習し、定着を図っていく。また、練習をするだけでなく、既習漢字を使って文章を書いたり、書いた文章を読み返すなどの学習を取り入れていきたい。 ・文の構成、特に修飾語・被修飾語や指示語の指し示す言葉について、繰り返しプリント等で学習していく。
情報の扱い方にに関する事項	○漢字辞典の使い方を問う設問では、部首さくいんについての理解は8割を超えていた。 ●全体として、県や市の正答率を下回っていた。 ●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える設問について、県・市の正答率を下回っていた。	・日々の学習の中で国語辞典や漢字辞典を使う経験を多く取り入れ、言葉に対する意識を高める。 ・国語科だけではなく、他教科においても調べ学習を取り入れ、日常生活の中でも積極的に辞典や事典を利用したりして使い方に慣れるようにする。 ・話や文章全体の内容を大まかにとらえ、話の中心を把握することができるように、主語と述語や修飾語と被修飾語の関係などを意識して文章が読めるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	○「ことわざの意味を知り、正しく使っている」設問では、県の正答率と同等であった。	・日々の学習の中で国語辞典や漢字辞典を使う経験を多く取り入れ、ことわざや慣用句・故事成語などの意味を知り、長い間使われてきた言葉に対する意識を高めていく。 ・読書により得た知識や情報が役立つ場面を設定し、幅広く本に親しむことができるようにする。
話すこと・聞くこと	●全体として、県・市の正答率を下回っている。 ●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える」設問では、県・市の正答率を大きく下回っている。	・「話し方かきくけこ」「聞き方あいうえお」等を意識させ継続して基本的学習態度の定着を図る。 ・授業の中で、ペア・グループ・全体と形態を変えて話し合う活動を意図的に取り入れているが、今後も継続していく。 ・意見や提案など、自分の考えを話したり、それらを聞いたりする言語活動の場面を設定し、目的に応じて表現する。
書くこと	●文章を書く設問では、市・県の正答率を大きく下回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いたり、考えや理由の関係を明確にして文章を書いたりすることについては、正答率も低く、無回答の割合も多かった。	・書くことに抵抗をもつ児童が多いことから、行事の振り返りや感想等、体験活動に結びつけて書く活動を意図的、継続的に設定し、文章を書くことに慣れさせていく。 ・条件を付けて文章を書かせたり、新聞や資料などを活用し、読み取ったことや考えたことを書かせたりする活動を取り入れ、スキルの向上を図る。
読むこと	○説明文において「叙述を基に文章の内容を捉える」設問では、県の正答率と同等であった。 ●説明文、物語文のどちらについても、県や市の正答率を下回った。特に、物語文では登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりや結び付けて想像する設問では県や市の正答率を大きく下回った。	・物語文の学習では、登場人物の言動だけでなく、場面の様子や移り変わりにも着目させて読み味わわせる。 ・説明文の学習では、大きなまとまりの中で事実と感想、意見などの関係を押さえる学習を通して、文章の内容を理解させるとともに、それぞれの関係に着目し、文章構成についても気づくことができるようにさせる。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.4	67.8	67.0
	図形	58.5	73.9	73.1
	変化と関係	48.5	61.4	60.2
	データの活用	37.5	52.7	52.1
観点	知識・技能	61.3	69.7	69.2
	思考・判断・表現	40.9	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	46.1	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

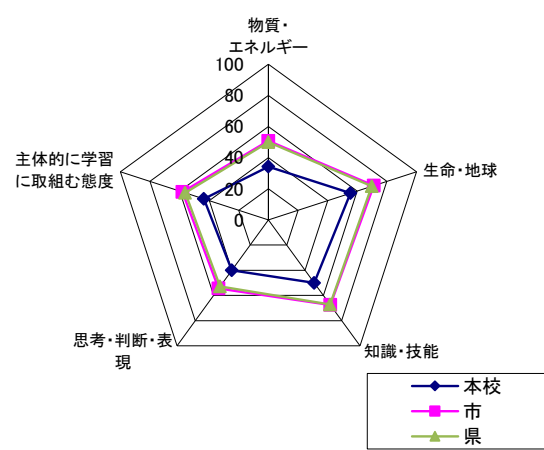
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○整数や分数の大小を比較する問題では、県の正答率を上回った。 ○小数・分数、整数の四則計算では、県とほぼ同等の正答率であった。 ●「わり算のきまり」や「億と兆、がい数の表し方」についての問題では、県の正答率を大きく下回った。	・基本的な計算を定着できるよう、朝の学習や家庭学習などで補い、定着を図る。 ・少人数指導担当と連携し、一人一人の学習の実態を把握し、授業内容や課題の難易度を変えながら、指導にあたったいく。
図形	○長方形の面積を求める問題や複合図形で、面積の求め方を表した式を選ぶ設問では、市や県の正答率よりもやや高かった。 ●全体として県や市の正答率を大きく下回った。特に、180°より大きい角の大きさを求める問題やおよその面積を求める問題の正答率が低かった。 ●いろいろな形の中の平行な関係については、正答率が県と同等であるが、辺の長さの性質を求める問題や作図では、県の正答率を大きく下回った。	・図形の性質などについては、授業の中でも随時取り上げ、定着を図る。 ・朝の学習や家庭学習などでも図形の問題を繰り返し行い、図形に対する基礎的基本的な学習で知識の定着を図る。 ・作図については、作図の手順や道具の使い方に慣れさせるとともに基本的な内容について習熟させる。
変化と関係	○長方形の面積を求める問題や複合図形で、面積の求め方を表した式を選ぶ設問では、市や県の正答率よりもやや高かった。 ●全体として県や市の正答率を大きく下回った。特に、「簡単な場合についての割合」では、設問に出てくる登場人物の考えた求め方を記述する問題では、無回答も多く、県の正答率を大きく下回った。	・複雑な問題について、内容を正しく読み取ることができるように、文章問題に多く触れる機会を設け、重要部分に線を引いたり、分かっていることや求めることを整理したりするなど解決の手順を少しずつ考えることができるように支援する。 ・記述する問題の無回答児童が多いので、自分の考えを書いたり、友達に伝え合ったりする場を授業の中で積極的に設ける。
データの活用	●全体として県や市の正答率を下回っている。特に「折れ線グラフ」では、設問に出てくる登場人物の考えた求め方を言葉や数を使って記述する問題では、無回答も多く、県の正答率を大きく下回った。	・算数の授業だけでなく、他教科においてもグラフや表から情報を読み取ったり、考えたりすることができるようにする。 ・記述する問題の無回答児童が多いので、日ごろの学習から自分の考えを書いたり、友達に伝え合ったりする場を設定する。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	34.2	50.8	50.0
	生命・地球	55.4	71.1	69.8
観点	知識・技能	50.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	40.0	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	43.6	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○「物の体積と温度」の「実験の結果をもとに、手作りの噴水の原理を推測することができる」と水のすがた「ペットボトルの容器などに水を入れたまま凍らせると容器が壊れることがある理由を、水の性質をもとに説明することができる」では県とほぼ同等の正答率であった。 ●「電気のはたらき」の「直列つなぎを理解している」「乾電池を直列つなぎと並列つなぎにしたときの検流計の針の振れ方を推測することができる」では県の正答率を大きく下回った。 ●「水のすがた」の「水を冷やしたときの温度変化のグラフを理解している」では県の正答率を大きく下回った。また、「水のすがたについて理解している」でも、県の正答率を大きく下回った。	・事象や道具の名前など、基礎的な部分での定着が不十分である。単元終了後に、教科書を読んだり今後はタブレット等も活用し、基礎的な用語の定着をはかっていく。 ・実験結果から、自分で考察をし、ノート等にまとめさせていく。また、単元のまとめを意識的に行い、系統的に捉えられるような学習を行うようにする。 ・実験等が行えないものに関しては、映像資料などを活用し、実感を伴った経験をさせていく。 ・記述して答える問題に、無解答が多く見られるので、授業の中で考察に重点を置き、自分の考えを自分の言葉で表す習慣を身に付けさせる。
生命・地球	○「月と星」の「星座は時間経過とともに位置は変わるが、並び方は変わらないことを理解している」「方位磁針の正しい使い方を身に付けている」では県の正答率と同等、もしくは上回っている。 ●「動物のからだのつくりと運動」の「腕をのばしているときの筋肉のようすについて理解している」や「骨と骨のつなぎ目を関節と呼ぶことを理解している」では、県の正答率を下回った。 ●「雨水のゆくえと地面のようす」の「土の粒の大きさと水はけの関係を指摘できる」では、県の正答率を大きく下回った。 ●「自然の中の水」の「結露の現象について理解している」では、県の正答率を大きく下回った。	・事象や道具の名前など、基礎的な部分での定着が不十分である。単元終了後に、教科書を読んだり今後はタブレット等も活用したりしながら、基礎的な用語の定着をはかっていく。 ・実験器具を実際に使い、使い方を学ばせていく。 ・日常目になっていることを学習と関連付けて再確認していけるように、実験や観察では、気が付いたことや分かったことをノートに記録する習慣を身に付けさせる。 ・実験や観察では、結果から気付いたことや考えをきちんと記録する習慣をつけさせ、結果について自他の考えを交流させる活動を取り入れていくことにより、考察する力や学び合う力を高めていく。

宇都宮市立富屋小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、朝食を食べている」の肯定割合は100%であり、睡眠時間も8時間以上寝ている児童の割合が80%を超えていることから、規則正しい生活習慣が身に付いていることが分かる。

○「家で学校の宿題をしている」の肯定割合は100%と高く、家庭学習の定着が見られた。しかし、内容的にみると、予習や復習をしている児童の割合は60%程度であるので、家庭学習の内容について支援していきたい。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う」「毎日の生活が充実していると感じている」「学習に自分から取り組んでいる」「学校の宿題は自分のためになっている」「自分にはよいところがある」の肯定割合は90%以上であり、県や市の割合と同等かやや上回っている。今後も、学習や生活の様々な活動を通して、自己肯定感や自己有用感が高まるようにしていきたい。

○「授業を集中して受けている」の肯定割合は100%で意欲的に学習に向かっていることが伺える。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の話は最後まで聞くことができる」「授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では、友達と話し合う活動をよく行っている」「人と話すことは楽しい」「授業で自分の考えを発表することは得意である」と回答した児童の割合はいずれも90%前後で、県や市の割合と比較しても同等か、上回っている。これは、授業で、意図的にペア学習やグループ学習など、互いの意見を交換して学び合っていく活動を多く取り入れてきた結果だと考えられる。今後も児童が安心して自分の考えを発言することができるように意図的に場を設定していきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定割合は90%前後で、県や市の割合と比較しても同等もしくは上回っている。高学年となり、学級の仕事だけでなく委員会においても自分の役割を果たそうと意欲的に取り組んでいる姿が伺える。今後も、様々な活動に高学年として意欲的に取り組み、児童が自己有用感を高めることができるようにしていきたい。

●国語、算数、社会などの各教科について「好き」と回答した児童が県や市の割合と同等であるが60%と低い。児童の多くは「将来のために大切である」「授業の内容はわかる」と回答しているものの、「好き」と回答した児童の多くが肯定感をもてずにいる。児童の興味や関心を高めたり、スモールステップでの学習を計画し、児童が「できた」と感じることができるようにしたりしながら、児童に達成感を味わわせ、自信をもって学習に取り組むことができるようにしていきたい。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」については、県や市の割合を下回った。また、テレビなどの視聴時間や携帯電話の所持など、県や市の割合よりも高くなっている。児童が家庭での約束を守り、規則正しい生活を送れるようにしていきたい。

宇都宮市立富屋小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の問いや気付きと結びつけた課題設定と発問の工夫	課題(めあて)と学習問題を区別するため、言葉を吟味し、既習の学習内容が想起されるような焦点化された課題(めあて)を提示している。	4・5年生ともに、「授業の中で目標(ねらい・めあて)が示されている」「授業であつかうノートには、学習の目標(ねらい・めあて)とまとめを書いている」の質問への肯定回答率は、県や市の割合とほぼ同等である。
意見を交換し、互いの考えを深めたり広げたりできるような場の設定	発達の段階に応じたノート指導を行い、各教科の授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り入れている。また、視点を明確にした話し合い活動を設定し、伝える力の向上を図る。	4・5年生ともに、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」との質問への肯定回答率は、県や市の割合を上回っている。しかし、「自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問への肯定回答率も県や市の割合とほぼ同等であり、書くことへの抵抗感を感じていることが伺える。